

苦痛カテゴリー検索表

分類	手技/処置	カテゴリー	備考
保定	用手保定	B	無麻酔・無鎮静下での数分間の姿勢制御。
	マウス・ラット尾静脈採血用保定器の使用	B	
	吸着ダニの搔除防止用金網装着(短時間)	B	
	ロガー装着	B	
	ウサギ耳翼辺縁静脈採血用保定器の使用	B	
	大動物柙場保定(姿勢制御はない)	B	
拘束	ラット用ボールマンケージ	C	無麻酔・無鎮静下での数時間にわたる姿勢もしくは生理・生態・習性の制御。
	マカク属サル用モンキーチェア	C	
個体識別	色素塗付、入墨、耳パンチ、耳標、脚帯、マイクロチップなど	B	耳パンチと耳介のバイオプシーを峻別する。
身体検査	体重測定	B	不動化のために麻酔することがある。
	体温測定	B	
	聴診	B	
	直腸検査	B	
	脳波測定	B	
	心電図測定	B	
	超音波画像測定	B	
	放射線画像撮影(X線、MRI、CTなど)	B	
	移植腫瘍サイズ計測	B	
制限	絶食・絶水(別表1)	B～D	別表1.絶食・絶水は動物種による代謝時間の差を考慮。
行動観察	摂餌・摂水量、行動量の測定、発情行動の観察、オープンフィールド試験	B	自発行動の観察
	強制運動、生態・習性の制限、劣悪環境への暴露	C	負荷・制限をかけたときの行動観察
材料採取	麻酔下で行い、覚醒させず安楽殺する臓器・組織の採取	B	眼底静脈叢からの採決は麻酔下で行う。静脈採血を10回以上反復実施する場合はC。マウス・ラットのテールカット(tail clipping)は3～4週齢での採取が原則。
	無麻酔で行う採血(注射器又は表皮薄切による末梢静脈採血など)	B/C	
	ダニによる吸血(軽度な発赤)	B	
	スワブ採取(鼻腔、口腔、クロー)	B	
	第一胃の胃液採取	B	
	カテーテルによる採尿/導尿(麻酔薬塗付)	B	
	麻酔下の採血(動脈、眼底静脈叢、体腔内血管)	C	
	麻酔下のバイオプシー(テールカット、耳介、皮膚、皮下脂肪、骨髄、腎臓、肝臓、消化管粘膜など)	C	
投与・接種	静脈、腹腔、筋肉(吹き矢を含む)、皮下(硬膜外を含む)、皮内、経皮、経口(カテーテルを使用を含む)、経気道/吸入(気管内挿管を含む)	B	麻酔薬の投与を含む。胎齢15日以上のマウス・ラット胎子は、苦痛カテゴリーを適用する。
	脳(室)、脊髄、鞘内、足低部、動脈、体表リンパ節、内臓血管(以上、麻酔下)	C	無麻酔で行う場合は理由を明記する。
	アジュバント乳化抗原 フロイント不完全 フロイント完全	C D	できるだけ不完全アジュバントを使用し、足低部は避ける。
移植	皮下	B	足低部は選択した理由を明記。
	足低部/フットパッド(麻酔下)	C	

	内臓(麻酔下)	C	
処置	麻酔下で行い、覚醒させず安楽殺する処置	B	別表2.放射線照射は線量と照射部位を考慮。 灌流固定は安楽死処置後に実施するものとする。
	受精卵回収(経腔的)	B	
	受精卵移植(経腔的)	B	
	気管内挿管(局所麻酔下)	B	
	内視鏡スコープ挿入(麻酔下)	B	
	紫外線照射(無拘束による日焼け実験)	B	
	浸透圧ポンプ埋め込み	C	
	脳内、筋肉内電極挿入(麻酔下)	C	
	脳室内カニューレ挿入(麻酔下)	C	
	留置針の設置 生態、習性を妨げない場合	B	
	生態、習性を妨げる場合	C	
	刺激毛、紫外線による痛覚反応測定	B	
	鎖肛(4時間)	B	
	放射線照射(別表2)	B~D	
手術(麻酔下)	覚醒させず安楽殺する手術の実習	B	精管結紮、胚移植は開腹手術を伴う。
	第一胃切除術	D	
	第四胃固定術	D	
	帝王切開	C	
	頭蓋骨穿孔術	C	
	乳頭切開術	C	
	皮膚切開・縫合・2週間後の抜糸(実習)	C	
	摘脾	C	
	精巣・卵巢摘出術	C	
	精巣の腹膜固定	C	
	精管結紮(マウス・ラット)	C	
	胚移植(マウス・ラット)	C	
病態モデル	食餌性肥満(機能障害なし)	B	原則として最大限の病態が発現することを前提にカテゴリーを選択する。重篤に至る前に安楽殺する場合は、その旨を明記し適切なカテゴリーを選択する。
	腎不全(ネフローゼを含む)	D	
	発がん	D	
	大腸炎(局所・短時間)	C	
	膀胱炎(局所・短時間)	C	
	炎症性疼痛(局所・短時間)	C	
	甲状腺機能低下症	C	
	急性膵炎	D	
	自己免疫疾患(重症に至らない)	C	
	アトピー性皮膚炎(長期にわたりストレス大)	D	
	巨大小腸・結腸症	D	
	パーキンソン病	D	
	バベシア感染症	D	
	テニア属条虫症	D	
	リーシュマニア原虫症	D	
	フォーゲル包条虫症	D	
	トリヒナ線虫症	D	
	トリパノゾーマ原虫症	D	
	多包条虫症	D	
	ハンタウイルス感染症(げっ歯類)	C	

	センダイウイルス感染症	D	
	インフルエンザウイルス感染症	D	
	狂犬病ウイルス感染症	D	
	豚コレラウイルス感染症	D	
	トリ白血病	D	
	マレック病ウイルス感染症	D	
	プリオン病	D	
安楽殺	化学的方法(麻酔薬の過剰投与、麻酔下のKCL投与、炭酸ガス吸入) 物理的方法(頸椎脱臼、脊髄破壊、断頭、麻酔等で意識喪失した動物の放血、胎子の低体温処置)	B	物理的方法は、事前の軽麻酔処置を推奨する国もある。